

九州見學分享

劉明浩2016



平成27年度「~~地(知)~~の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」選定状況



(1) 選定件数

件数	42
----	----

※申請件数：56件

(2) 事業に参画する大学数(設置形態別)

		参画する大学数	
			うち申請大学数
大学	国立	46	36
	公立	40	4
	私立	108	2
	小計	194	42
短期大学	公立	6	0
	私立	25	0
	小計	31	0
高等専門学校	国立	30	0
	公立	0	0
	私立	1	0
	小計	31	0
合計	国立	76	36
	公立	46	4
	私立	134	2
	合計	256	42

※参画する大学：COC+申請大学及びCOC+に参加する大学
 ※申請大学：COC+申請大学

文部科學省推動的全國計畫，鼓勵大學與地方積極合作，以地方知識為核心，推動研究和教學的發展，簡稱為COC，+表示為加強版。

西元2015年

核定件數=主要提出整合計畫的大學數

大學才能提案申請

共同參與數=協同參與和推動的學校數，橫跨大學、短大(專科)、高中職

平成 27 年度大学教育再生戦略推進費¹

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」公募要領

1. 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(以下「プログラム」という。)の背景・目的

【背景】

我が国が世界に先駆けて迎えている人口減少・超高齢化社会において、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』ことが危惧されています。このような中で、地方と東京の経済格差拡大が、魅力ある職を求める我が国の人口を地方から東京圏へ流出させていると指摘されております。とりわけ、このような人口の流出は、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代に集中しています。

このような人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するためには、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる魅力ある就業先や雇用の創出等に国と地方が一体となって取り組んでいかなければなりません。

地方を創生する中心となるのは「ひと」であることは言うまでもなく、地方の未来を担う「ひと」を養成する主役は、我が国における知識基盤社会の推進を担ってきた大学や短期大学、高等専門学校(以下「大学」という。)です。これらの高等教育機関が、地域の人材需要を的確に把握し、その地域の課題解決の中心的役割を担う人材を育成することは、地域の知の拠点である大学の使命でもあります。

大学がその存在意義をいかに発揮し、これからの地方に必要な人材を育成していくためには、地方において魅力ある就業先や雇用創出を担う地方公共団体や企業等と協働し、これら地方の大学が一層活性化することで、都市部の大学以上に若者にとって魅力ある存在となることが求められています。

【目的】

地域で活躍する人材の育成や大学を核とした地域産業の活性化、地方への人口集積等の観点からは、地方大学が果たすべき役割には、極めて大きな期待が寄せられています。

平成 25 年度から「地域のための大学」として、各大学の強みを生かしつつ、大学の機能別分化を推進し、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(大学COC²事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地

¹ 「大学教育再生戦略推進費」(以下「再推費」という。)とは、教育再生実行会議や中央教育審議会等において提言された大学教育の質の向上に関する改革を推進するため、設置形態を越えた競争的環境の下で、世界をリードする教育研究拠点の形成(「博士課程教育リーディングプログラム」、「スーパーグローバル大学等事業」など)や革新的・先進的な教育研究プログラムの開発(「大学教育再生加速プログラム(AP)」、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」など)に関する大学の優れた取組を重点的に支援する補助金

² 「COC」は「Center of Community」の略称。知的創造活動の拠点である大学は、地域の中核的存在(Center of Community)である。平成 25 年に閣議決定された「第 2 期教育振興基本計画」では、これらの大学が有する様々な資源を活用して、地域が直面している様々な課題解決に取り組むことにより、教育研究機能の向上に資するとともに、地域の活性化にもつなげることから、このような活動に対し、一層の支援を行うこととしている。

平成27年度大学教育再生戦略推進費
「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
公募要領



平成 27 年3月
文部科学省

人口老化
郷鎮地域衰退
就業集中六大都會區，造成人才滿溢和競爭

社會課責：
大學存在的意義
社會想像：
大學和地方的關係

人才培育：
老化日本需要什麼人才

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)

事業説明会資料

平成27年1月30日(金)

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室

※本説明会資料の内容については、変更の可能性がある

数字會説話

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 ～地(知)の拠点COCプラス～

平成27年度予算額 44億円(新規) (旧COC事業平成26年度予算額 34億円)

【背景・課題】
人口減少を契機に、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されている。
地方/東京の経済格差拡大が、東京への一極集中と若者の地方からの流出を起している。特に、地方圏から東京圏への転入超過は、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代に集中。

【事業概要】
地方の大学… 地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定(自治体の教育振興基本計画等へ事業期間中に反映)
東京等の大学… 地方の大学や自治体・中小企業等と協働し、地方の魅力の向上に資する計画を策定(協働する自治体の施策等へ事業期間中に反映)

- COC事業の要件を満たした大学が、地域と協働し、地域を担う人材育成計画を実現するための教育改革を実施
- COC推進コーディネーターを活用し、都道府県内の他大学や自治体、企業等の連携先(事業協働機関)を拡大

⇒ 事業協働機関が設定した目標達成のため、大学力(教育・研究・社会貢献)を結集
※ COC大学は事業協働機関に参加することが事業継続の条件

【支援内容】
地域活性化政策を担う自治体・人材を受け入れる地域の企業や地域活性化を目的に活動するNPOや民間団体等と協働して、地方を担う人材育成に取り組み大学がCOC推進コーディネーターの活用等により、地方創生を推進・拡大する取組を支援。

【成果】

- ・事業協働地域における雇用創出
- ・事業協働地域への就職率向上

若年層人口の東京一極集中の解消

【COCからCOC+へ】

以下の条件を満たした上で、大学の教育・研究・社会貢献機能(シーズ)と地域課題(ニーズ)をマッチング

①学術的な取組としての位置付けを明確化、②大学の教育研究と一体となった取組、③大学と自治体が組織的・実質的に協力、④これまでの地域との連携の実績、⑤自治体からの支援の徹底-マッチングファンド方式-

COC推進コーディネーター

- ・事業協働機関による教育プログラムや就職率向上プログラム策定のコーディネート
- ・COC事業成果の連携大学等への普及
- ・地方創生事業連携先の紹介
- ・他県のCOCコーディネーターと協働で全国的なネットワークの構築等

地方大学を活用した雇用創出・若者定着

総務省
文部科学省

1. 人口減少克服に向けて解決すべき現状の課題

- 地方からの人口流出は、大学等進学時と大学等卒業後の最初の就職時という2つの時点において顕著。
- 特に大学等卒業後の地方定住を促進するためには、在学中から授業等を通じて地域との関わりを深める取組や、大学等の卒業生が地方に定住して働く雇用を創出する必要があるが、必ずしも十分な成果に至っていない。

2. 自律的・持続的な社会創生に向けて地方が取り組むべき対策の方向性

- 地方の人口減少を克服していくため、地方公共団体と大学等が連携し、人口の東京一極集中が顕著となる上記2時点に焦点を当て、学生が地域に残るための重点的な取組を進めることが必要。具体的には、各地方が実情を踏まえた創意工夫を発揮しながら、以下の方向性に沿った対策を講じていくことが求められている。
 - より多くの地方の若者が、地方大学等へ進学
 - 地方大学等を卒業したより多くの若者が、就職時に地元企業等を選択
 - 都市部の大学等に進学した若者も、就職時に地方へ環流

- 同時に、地方への定住の流れを継続させるためには、大学等と地域の関わりを強化し、大学等有する専門知識を活かした産業振興・雇用創出等を図る対策を併せて実施することが必要。

3. 地方公共団体と大学等との連携による雇用創出・若者定着に向けた取組の促進

- ① 地方公共団体と地元産業界が協力し、学生の奨学金返還を支援するための基金を造成
 - ・将来の地域産業の担い手として地方公共団体が指定する分野へ進学した学生に対し、文科省(独)日本学生支援機構)が無利子奨学金の優先枠(地方創生枠(仮称))を設けるなど一定の優遇措置を実施
 - ・地元就職者等に対し、地方公共団体と地元産業界で造成する基金から奨学金返還の際に一定の給付を実施(基金造成について特別交付税措置)
 - ② 地方公共団体と大学等が具体的な数値目標(※)を掲げた「協定」を締結し、連携して雇用創出・若者定着の取組を実施
 - ・総務省は地方公共団体の取組に対して特別交付税措置により支援
 - ・文科省は大学等の取組に対して補助事業により支援
- ※ ●大学卒業生の県内就職率 ○%アップ、共同研究に基づく新事業による雇用創出 ○人 など

大学を「地(知)の拠点(COC)」へ Center of Community

事業名称	地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)	地(知)の拠点大学による地方創生推進事業
事業目的	地域のニーズと大学のシーズ(教育・研究・社会貢献)のマッチングによる地域課題の解決	地方の大学群と、地域の自治体・企業やNPO、民間団体等が協働し、地域産業を自ら生み出す人材など地域を担う人材育成を推進
最終目標	地域再生・活性化の核となる大学の形成	若年層人口の東京一極集中の解消
申請要件	①全学的な取組としての位置付けを明確化(学則等の位置付けなど) ②大学の教育研究と一体となった取組(全学生が在学中に同一科目は地域志向科目を履修) ③大学と自治体が組織的・実質的に協力 ④これまでの地域との連携の実績 ⑤自治体からの支援の徹底-マッチングファンド方式-	大学COC事業の要件に以下を追加 ⑥自治体の教育振興基本計画や申請内容に係る自治体の基本計画等への申請大学の役割の記載 ⑦地域の複数大学、中小企業やベンチャー企業、NPO等との連携
成果指標	取組に対する連携自治体の評価	連携自治体にある企業等への就職率・雇用創出数 取組に対する連携自治体及び中小企業等の評価
予算	平成26年度 34億円 平成25年度 23億円	平成27年度予算額 44億円

● 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

文部科学省では、平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」を実施します。

平成27年度 **全文上網，公開資料。**

平成27年度の選定について **受到高度重視：規模和預算持續增加。**

● [平成27年度「地\(知\)の拠点大学による地方創生推進事業\(COC+\)」の選定状況について](#)

一年的要求比一年還要紮實，強調校際整合，發揮擴散效益。

平成27年度の公募について

● [平成27年度「地\(知\)の拠点大学による地方創生推進事業」及び「大学教育再生加速プログラム\(AP\)」事業説明会の資料について](#)

● [平成27年度「地\(知\)の拠点大学による地方創生推進事業」の公募](#)

(※平成27年6月19日に申請書作成に当たって2ページ「1. 一般的留意事項」及び5ページ「4. 地方創生に必要なCOC+大学の教育カリキュラムの構築・実施について」を一部修正しました。)

(※平成27年6月19日に審査要項別紙について、一部修正しました。)

(※平成27年6月4日に申請書作成に当たって7ページ「5. COC+大学及びCOC+参加校の基本情報(様式3)」について、一部修正しました。)

(※平成27年6月4日に(様式3-1)基本情報について、大学よりお問合せが多かったため、一部修正しました。)

(※平成27年6月4日にQ & Aの10ページ問3-30、11ページ問4-8について、追加しました。)

(※平成27年6月1日に公募要領3ページ「(3)資格申請」、5ページ「(7)事業規模」、6ページ「(9)対象とする事業の内容」について、一部修正しました。)

(※平成27年6月1日に(様式1)計画調査(共通様式)7ページ「2. 事業の目的及び概要」、10ページ「3. 事業協働地域の課題等」について、一部修正しました。)

(※平成27年6月1日に(様式3-1)基本情報について、一部修正しました。)

(※平成27年6月1日にQ & Aの5ページ問2-9、9ページ問3-26、問3-27、10ページ問3-28、問3-29、11ページ問4-7について、追加しました。)

● [平成27年度「地\(知\)の拠点大学による地方創生推進事業」の公募説明会について](#)

● [平成27年度「地\(知\)の拠点大学による地方創生推進事業\(COC+\)」の申請状況について](#)

		ト	学、松山東雲短期大学		会、愛媛経済同友会、愛媛県中小企業家同友会 他
国立	高知大学	まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム	高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校	高知県	土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会、高知県工業会、高知県経営者協会
公立	北九州市立大学	「北九州・下関まなびとびあ」を核とした地方創生モデルの構築	九州工業大学、下関市立大学、九州歯科大学、九州共立大学、九州国際大学、九州女子大学、産業医科大学、西南女学院大学、西日本工業大学、九州栄養福祉大学、梅光学院大学、北九州工業高等専門学校	福岡県、福岡県北九州市、下関市	北九州商工会議所、北九州活性化協議会、下関商工会議所
国立	佐賀大学	さが地方創生人材育成・活用プロジェクト	九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学	佐賀県、佐賀県佐賀市、唐津市、鳥栖市、多久市、伊万里市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、玄海町、有田町、大町町、江北町、白石町、太良町	佐賀県農業協同組合、戸上電機製作所、ジャパン・コスメティックセンター、佐賀電算センター、オプティム 他
国立	長崎大学		長崎県立大学、長崎国際大学、長崎純心大学、長崎短期大学	長崎県	十八銀行、親和銀行、メモリード、協和機電工業、長崎船舶装備 他
国立	熊本大学	“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム	熊本県立大学、九州看護福祉大学、熊本学園大学、尚綱大学、崇城大学、東海大学、尚綱大学短期大学部、熊本高等専門学校	熊本県	熊本県工業連合会、熊本経済同友会、熊本県商工会議所連合会、熊本県商工会連合会、熊本県中小企業団体中央会 他
国立	大分大学	地域と企業の心に響く若者育成プログラムと大分豊じょう化プラン	大分県立看護科学大学、日本文理大学、別府大学	大分県、大分県大分市、別府市、由布市	大分県商工会議所連合会、大分県商工会連合会、大分経済同友会、大分県経営者協会、大分県中小企業団体中央会 他
国立	宮崎大学	大学間連携による地域ニーズを捉えたみやざき産業人材の育成	宮崎県立看護大学、宮崎公立大学、九州保健福祉大学、都城工業高等専門学校	宮崎県	宮崎県商工会議所連合会、宮崎県商工会連合会、宮崎県中小企業団体中央会、宮崎県工業会、宮崎県経営者協会 他
国立	鹿児島大学	食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム	鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島工業高等専門学校	鹿児島県	かごしま産業支援センター、鹿児島県工業技術センター、鹿児島県大隅工技術研究センター、鹿児島県観光連盟、鹿児島県工業倶楽部 他

規畫學校

參與學校

紅色是這次參訪和互動的大學。
 橘色是到了當地意外有互動的大學。
 藍色是聯繫上，但來不及準備的大學。

行程安排的困擾和獲得的協助

- 學校號稱為國際大學，卻沒有日文簡介。
- 通譯品質、通譯品質、通譯品質。
- 暨大沒有像樣的訪問禮物或紀念品。

- 國際長跨刀協助。
- 福岡辦事處努力幫忙。
- 受訪學校相當重視。

崇城大學 - 內丸惠一



内丸 惠一(ウチマル ケイチ) 講師



研究キーワード

山鹿、みずあかり、桜灯籠、宇土市船場川、坪井川浮き灯籠

研究分野(テーマ)

方針

まちづくり活動を通じて地域の潜在だ可能性を見出し、それを新しい魅力として表に現している。その一環として建築をつくっている。

まちづくり

大分県白杵市の「うすき竹育」に始まり、熊本県の「みずあかり」「山鹿灯籠浪漫・百華百彩」「本妙寺桜灯籠」などを立ち上げ住民と卒業生に受け継がれている。

建築

山鹿市・豊波神社

山鹿市・さくら湯再生基本構想・基本計画の策定

船場川浮き灯籠・すき竹育オブジェ制作

地域と学校の協力による「新たな山鹿のまちづくり」

熊本春らし人祭り みずあかり

担当授業科目

日本建築史、西洋建築史、近代建築史、建築設計製図Ⅱ、地域計画設計

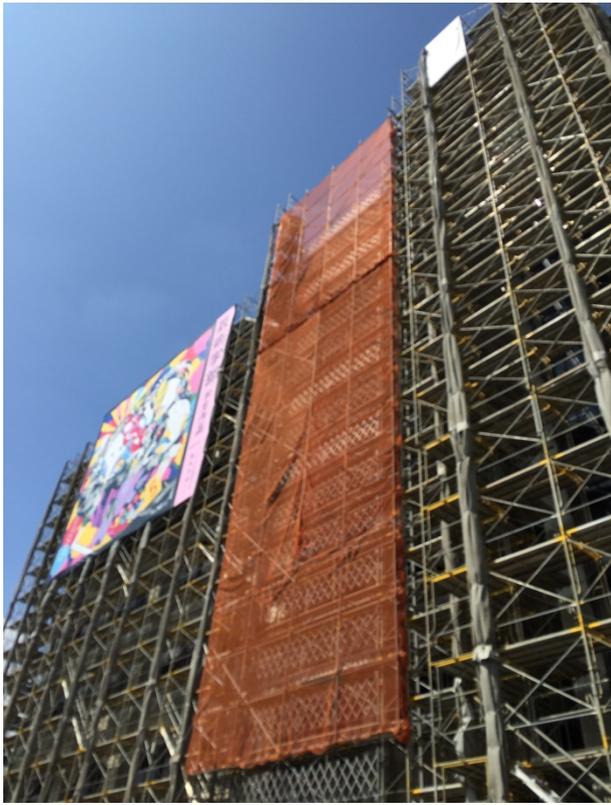
経歴

1984年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了

具強烈社會性格的建築學科講師

内丸惠一指著一排建築人的期刊
說：我不希望成為擁有光環的知名建築師，期待自己帶著高度社會關懷投身於建築設計行動。

研究室的藏書面向相當廣泛，包括美學、社會學、地域歷史和文化。



まちづくりの意味と構造

崇城大学工学部建築学科 講師

内丸 恵一

一級建築士 まちづくりコーディネーター

860-0082 龍本市西区池田 4-22-1
(大学) 096-326-3111 (携帯) 090-1974-2939
Mail: uchimaru.archi.sojo@gmail.com

崇城大学工学部建築学科 内丸恵一

啟發點

- 在京都大學（學士＋碩士）求學時，遇到一位老師，影響他深遠，開始思考：什麼是建築？
建築的意義應該是什麼？
- 畢業後，原本開設建築師事務所，後來被攬聘到大學內。不斷思考，我應該教給學生什麼？
- 授業科目：日本建築史、西洋建築史、近代建築史、建築設計製図Ⅱ、地域計画設計。

地域計画設計

兩頁的授課計畫

崇城大学建築学科 3年科目「地域計画設計」の概要とこれまでの成果

【科目の基本情報】

科目名	地域計画設計				
対象学年	3年	開講期間	後期	単位数	3 必修・選択
対象学科	工学部建築学科	受講者数	建築学科3年生（平均18名前後）		
担当教員	内丸憲一（過去参加教員：本保基人、秋元一秀、西郷正浩、古賀元也）				

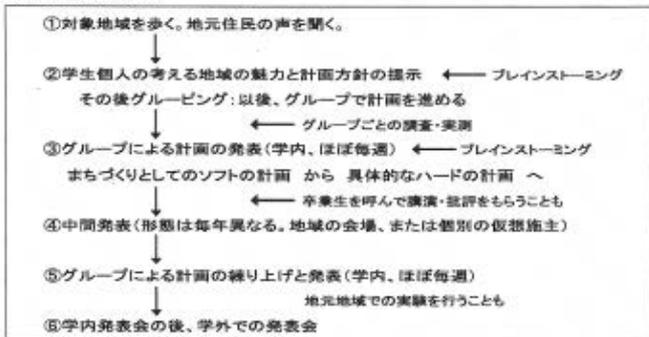
【科目の概要】

- ①地域社会の中に実際に出ていき、（対象地域は課題ごとに指定）
- ②その地域の持つ魅力や可能性を学生がみずから発見し、
- ③それらを生かしたまちづくりの計画を提案する。
- ④その成果を学外で発表する。
- ⑤学生は3名程度のチームを組み、
- ⑥大学では、ほぼ毎回パワーポイントでの発表をおこなう。



対象地域を歩く

【授業のプログラム】



地元住民の声を聞く



チームディスカッション



計画過程での社会実験



学外での発表会

- 清楚交待教學目標和方法
- 欲培養的能力不須和校、院、系做對應
- 社會參與式課程
- 以熊本縣山鹿市、大分縣臼杵市為基地

「地域計画設計」の授業は地域住民の協力によって成り立っています。その成果は地域社会に還元され、その中のいくつかは住民に引き継がれ、地域を代表するものになっています。有志の学生は熊本県内で組織し、各地域のリーダーになって活動を引き継いでいます。

【学生の到達度目標】

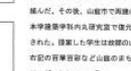
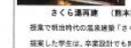
- ①課題の発見能力： 地域に魅力や可能性を見出す能力の養成
- ②問題解決能力： 実際の社会への問題解決および計画提案能力の養成
- ③共同作業の推進能力： チームリーダーによる協同性とリーダーシップの養成
- ④プレゼンテーション能力： 発表中心の授業と地域住民への発表会
- ⑤教育目的： 提案の能力をもつ地域リーダーを育てる

【大学と地域社会との連携】



【学生および地域社会への効果】

- ・ 社会に対する学生の視野の拡大
- ・ 地域への新しいまちづくりの提案と実践
- ・ まちづくりリーダーとしての人材の育成



代表作

本妙寺桜灯籠

大分県臼杵市の「うすき竹宵」に始まり

山鹿灯籠浪漫・百華百彩

灯りのまちづくり

崇城大学 内丸研究室の仕事・I

【非日常的な夜の灯りによって、
隠れて見えにくい町の魅力を現します】

そこに住んでいる人々が、自分の町の魅力に驚く。
外から来る人々が歓声を上げるのを見てうれしくなる。
だんだんと、「灯り」に参加する人々が増えてくる。
気が付くと、自分の町への自信と愛着が深くになっている。
こんな「まちづくり」を私たちは続けています。

はなとうろう 本妙寺桜灯籠

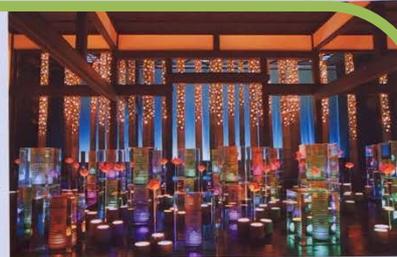
3月最後の土曜日、1年に1日だけ本妙寺の
長い参道に約 6000 灯のあかりが並びます。
内丸研究室によって始められ、町の人々と卒業
生たちに受け継がれて 13 年目を迎え、今
は熊本の新しい風物詩になっています。



竹宵の始まった場所・真光寺のオブジェは、第1回目から内丸研究室がつくり続けています。

うすき竹宵(たけよひ)

日本で始めて市街地に竹の灯りを並べたまつり、「うすき竹宵」。
内丸研究室は、最初から町の人々とともに、竹灯りの方法と、「まちづくり」としての竹宵のありかたを模索してきました。



町内外の人々によってつくられる 25~30 箇所のオブジェは
毎年デザインが変わります。竹宵を経験した学生たちは、
卒業しても1年に一度、オブジェをつくり臼杵の町に帰って
来ます。「おかえり」の声に迎えられて。

竹宵が始まって19年目を迎えました。
この間、町の姿も、町の雰囲気も、人々の心も変わりました。
中心市街地全体が、歴史の息づく生活商店街として再生し、空
洞化の問題は解消しました。町の人々は自分の町に自信と愛着
を持ち、以前のような自分の町を卑下する言葉は消えました。

工事の騒音もやみ、町が変わる高揚感も落ち着いた今、臼杵の
町は、「まちづくり」の次の段階を模索しています。



みずあかり

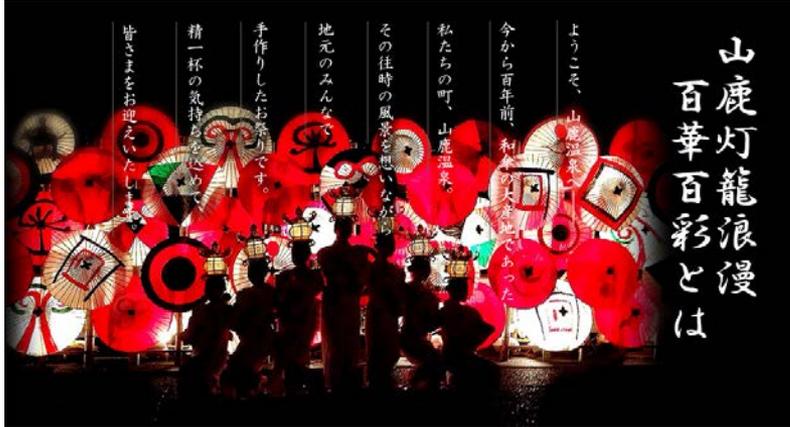
「浮き灯籠」や半竹あかり。
内丸研究室によって開拓された「み
ずあかり」の方法が、町の人々に受
け継がれて11年。多くの熊本市民
に認知されるまつりになりました。
内丸研究室は、まつりの中心部、清
正公像の前広場のオブジェをつつ
ています。

山鹿灯籠浪漫・百華百彩

崇城大生によって提案された和傘のあかりを、内丸研究室が竹灯り
と組み合わせて、山鹿の町に並べました。
江戸町人文化の華やかな雰囲気や今に残る山鹿の町は、百華百彩
の彩りとよく合います。まつりが始まって今年度で 12 年、町
の人々によってだんだんと規模が拡大され、主要舞台である九日町商
店街にも、新装開店するお店が増えました。「まちづくり」として
の百華百彩は、国や県から多くの表彰を受けています。



代表作大量運用的元素



竹子、歴史、文化、和地方討論、景觀設計 →
創造關注、活化地方、建立特色成為地方資產

目前正在進行的計畫

山鹿・さくら湯再生

崇城大学 内丸研究室の仕事-Ⅱ

【山鹿の中心であったさくら湯を、明治の家で再建します】

約60年間の建築活動が興り、地元住民と市内外からの寄付金によって山鹿町二子宮(ふたごのみ)の古壇に神社が建ちました。地区のシンボルとしてだけでなく、縁結びの神様として、山鹿の観光資源としても期待されています。

おわれは、「まちづくりの活動から建築を建てること」を建築しています。あらかじめ建つことが決まっている建物と地域住民がどのよに開くか、という視点ではなく、例えばさくら湯再建の場合のように、地域住民の思いが結果として建築につながる活動ができないかと考えています。

約60年間の建築活動が興り、地元住民と市内外からの寄付金によって山鹿町二子宮(ふたごのみ)の古壇に神社が建ちました。地区のシンボルとしてだけでなく、縁結びの神様として、山鹿の観光資源としても期待されています。

「うすき竹青」の新しいシンボルです。「敷居宿伝説」(竹青の基本ストーリー)にまつわる神社が計画されています。

熊本県Y町のシンボル、大通り物のための展示施設の設計が進行中です。

「本妙寺燈籠(はなとろう)」をすめる町の人々と内丸研究室が協力して、花園プレイパークにシンボルタワーをつくりました。本家の電燈社を利用して、1年がかりで完成しました。構造と表現の一致する建物です。

歴史者の企画で、東京の赤坂プリンスホテルの1階ロビーで、熊本県をアピールするインスタレーションをおこないました。百華百影の活動から感じた山鹿の個性を表現しました。

「肥後のひなまつり」のためのポケットスペース (熊本市)
木材と竹皮でできた実物大の恐竜の骨格が、恐竜の町・御船の家を思い起こらして出現します。内丸研究室によって設計された最初の一体はディノイク。活動の先には恐竜ミュージアムや街なかギャラリーの建設があります。

柱が林立する奥行き深い浴室空間 (昭和30年以前) 再建されたさくら湯内部(女湯)

再建されたさくら湯 計画模型:手前が休憩室・和次室・浴室を見る

内丸研究室は、明治から昭和にかけてのさくら湯の増築過程を解明し、現された写真や模型から、さくら湯の建築を復元しました。さらに高度な消費社会の定む建築、市民との協働を兼ねて、さくら湯再生の基本構想と基本計画を策定いたしました。重要なポイントが建築に再生されるよう、基本計画には、実質的な基本設計と、実施設計に踏み込んだ計画を示しています。

再建されたさくら湯 計画模型:手前が休憩室・和次室・浴室を見る

旧さくら湯の空間的特徴
・奥行き深い脱衣室-浴室空間
・1階と2階で寸法体系の異なる柱配置

空間的特徴を残して現代の使用に耐える

新さくら湯の計画の方針
・脱衣室と浴室の空間的連続性を保持する
・柱と梁の位置を変えない
・浴室にみくらスペースを拡張する

復元平面図 計画平面図

北側 計画立面図 西側 計画立面図

立面の破風飾りや外壁の色目(丹州や丹波産漆、黄土塗)には既存の部材を複製した型安産元です。

山鹿:八千代館でのVRプロジェクト

まちづくりから建築へ

崇城大学 内丸研究室の仕事-Ⅲ

【建築からのまちづくりではなく、まちづくりからの建築を求めて】

約60年間の建築活動が興り、地元住民と市内外からの寄付金によって山鹿町二子宮(ふたごのみ)の古壇に神社が建ちました。地区のシンボルとしてだけでなく、縁結びの神様として、山鹿の観光資源としても期待されています。

おわれは、「まちづくりの活動から建築を建てること」を建築しています。あらかじめ建つことが決まっている建物と地域住民がどのよに開くか、という視点ではなく、例えばさくら湯再建の場合のように、地域住民の思いが結果として建築につながる活動ができないかと考えています。

約60年間の建築活動が興り、地元住民と市内外からの寄付金によって山鹿町二子宮(ふたごのみ)の古壇に神社が建ちました。地区のシンボルとしてだけでなく、縁結びの神様として、山鹿の観光資源としても期待されています。

「うすき竹青」の新しいシンボルです。「敷居宿伝説」(竹青の基本ストーリー)にまつわる神社が計画されています。

熊本県Y町のシンボル、大通り物のための展示施設の設計が進行中です。

「本妙寺燈籠(はなとろう)」をすめる町の人々と内丸研究室が協力して、花園プレイパークにシンボルタワーをつくりました。本家の電燈社を利用して、1年がかりで完成しました。構造と表現の一致する建物です。

歴史者の企画で、東京の赤坂プリンスホテルの1階ロビーで、熊本県をアピールするインスタレーションをおこないました。百華百影の活動から感じた山鹿の個性を表現しました。

「肥後のひなまつり」のためのポケットスペース (熊本市)
木材と竹皮でできた実物大の恐竜の骨格が、恐竜の町・御船の家を思い起こらして出現します。内丸研究室によって設計された最初の一体はディノイク。活動の先には恐竜ミュージアムや街なかギャラリーの建設があります。

柱が林立する奥行き深い浴室空間 (昭和30年以前) 再建されたさくら湯内部(女湯)

再建されたさくら湯 計画模型:手前が休憩室・和次室・浴室を見る

内丸研究室は、明治から昭和にかけてのさくら湯の増築過程を解明し、現された写真や模型から、さくら湯の建築を復元しました。さらに高度な消費社会の定む建築、市民との協働を兼ねて、さくら湯再生の基本構想と基本計画を策定いたしました。重要なポイントが建築に再生されるよう、基本計画には、実質的な基本設計と、実施設計に踏み込んだ計画を示しています。

再建されたさくら湯 計画模型:手前が休憩室・和次室・浴室を見る

旧さくら湯の空間的特徴
・奥行き深い脱衣室-浴室空間
・1階と2階で寸法体系の異なる柱配置

空間的特徴を残して現代の使用に耐える

新さくら湯の計画の方針
・脱衣室と浴室の空間的連続性を保持する
・柱と梁の位置を変えない
・浴室にみくらスペースを拡張する

復元平面図 計画平面図

北側 計画立面図 西側 計画立面図

立面の破風飾りや外壁の色目(丹州や丹波産漆、黄土塗)には既存の部材を複製した型安産元です。

山鹿:八千代館でのVRプロジェクト

山鹿湯屋的活化再造

御船町、板後、豊波稻荷神社等地域活化

熊本大地震後，擔任宇土市市役所、廳舍建設檢討委員會的委員長，負責市役所的重建。
 學生畢業後，在熊本成立事務所，跟內丸惠一老師持續合作。

順道問的問題

- 少子化的招生問題？
- 有沒有限期升等？
- 學生就業的情況？在鄉鎮工作的狀況多嗎？

心得小結

- 帶學生進入地域進行社會實作的專任大學講師是存在的（我內心像敲過的鐘一直鳴響）；這間大學支持和鼓勵他的存在。
- 透過實作沈澱產生出研究是可行的。
- 好的老師會影響一群學生，讓他們變得不一樣。

位置図



- 1 黒髪北地区、黒髪南地区、教育学部東教壇**
(本館棟、附属図書館、文、教育、法、薬、工、社文科棟、自然科学棟)
 ○JR熊本駅から
 産交バス：黒髪南、黒髪ヶ丘(子爵橋経由)「熊本大前」下車
 ○JR上熊本駅から
 都市バス：第一環状線、昭和町線(子爵橋経由)「子爵橋」下車、徒歩10分
 ○JR黒髪口駅から
 産交バス：交通センター行き「熊本大前」下車
 ○交通センターから(15番のりば)
 産交バス：黒髪南、黒髪ヶ丘、大江行き等(子爵橋経由)「熊本大前」下車
- 2 本荘・九品寺地区**
(医学部、附属図書館)
 ○JR熊本駅から
 都市バス：第一環状線等(大学病院・大江橋経由)「大学病院前」下車
 ○交通センターから(15番のりば)
 都市バス：八王子倉庫線、済生会病院・野副団地行き「大学病院前」下車
- 3 大江地区**
(医学部等)
 ○JR熊本駅から
 市電：神埼町行き(A系統)「神埼天神前」下車、徒歩9分
 ○交通センターから(18~20番のりば)
 産交バス：本山、湯山線、黒髪ヶ丘行き等(神埼・黒髪橋経由)「神埼天神前」下車、徒歩9分
 熊本バス：黒船、甲佐、城南行き等(黒船・黒船橋)「神埼天神前」下車、徒歩5分
 ○JR新水鏡駅から
 徒歩10分
- 4 京町地区**
(附属小学校、附属中学校)
- 5 城東地区**
(附属幼稚園)
- 6 学生寄宿舎、国際交流会館**
- 7 大江総合運動場**
- 8 合津マリンステーション**
 ○JR熊本駅：交通センターから(15番のりば)
 産交バス：本道、元尊園橋ホテル行き「合津」下車
- 9 地域共同ラボラトリー**
 ○交通センターから(15番のりば)
 産交バス：阿蘇(ままと空堀)行き(阿蘇リムジン)「阿蘇(ままと空堀)」下車、車で5分



熊本大學

- 九州地區第二指名的國立大學。





以地方為重要的「服、教、研」課題

熊本大學的標語

Forest of Creative Powers, Blaze of Challenging spirits

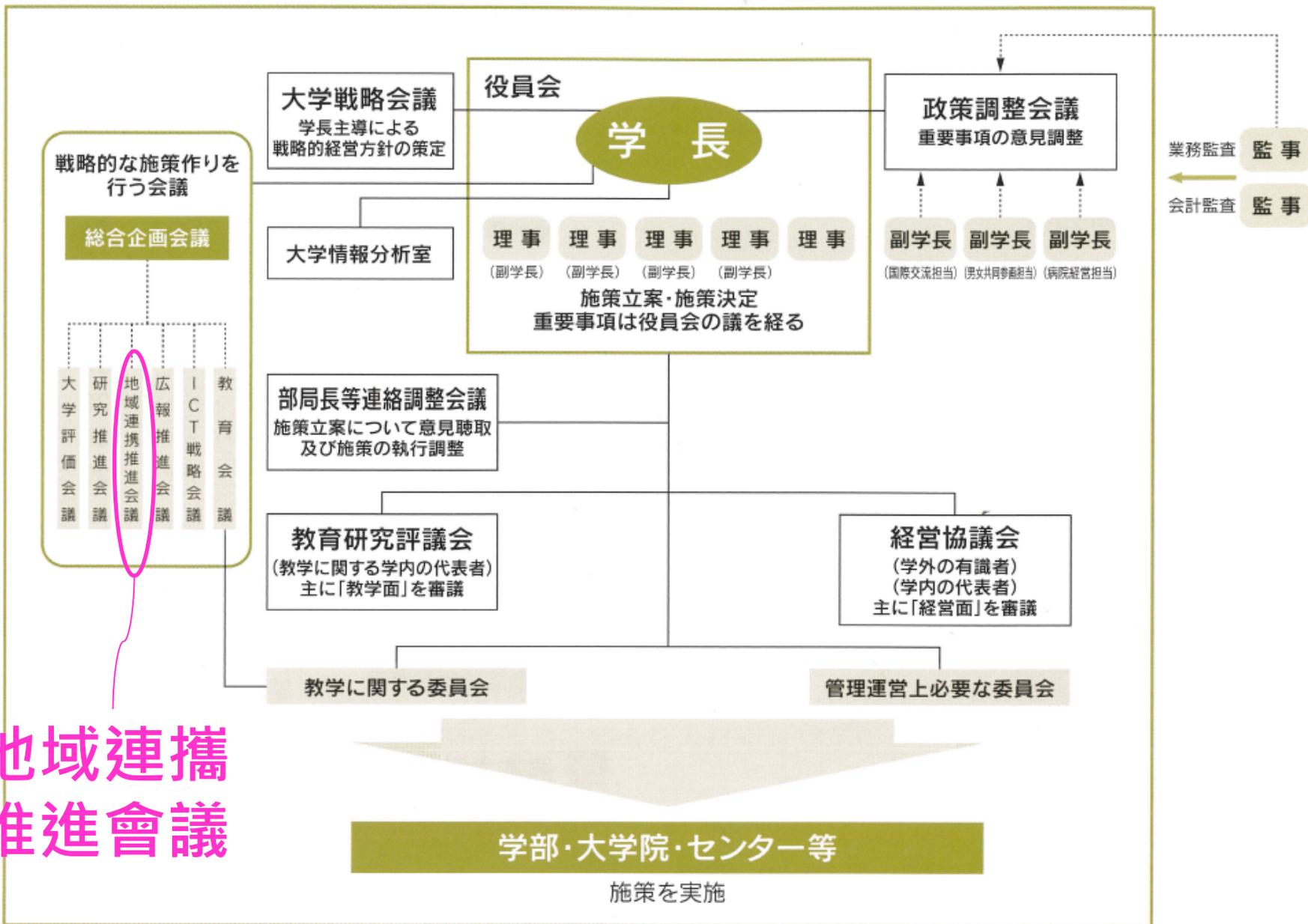
創造する森 挑戦する炎



本学の理念・根源的な特質を社会に広く訴えることを目的としたコミュニケーションワード

- **熊本大學文學部入學**後向少年JUMP初次投稿，曾經一度被井上試圖丟棄的作品居然吸引了編集者的目光。**大學3年級時退學**，來到東京，當漫畫家北條司的助手。
- 1988年，當時21歲的井上以《紫色的楓》榮獲「手冢獎」登上漫畫舞台。緊接著發表了短編《喜歡紅色》。
- 1990年，在《周刊少年JUMP》連載《**Slam Dunk灌籃高手**》，單行本在全日本銷售量超過了一億部，並在全日本捲起一股籃球熱潮。現累計銷量1億4000萬部。

概念図



地域連携
推進会議

組織図



教職員生規模

- 學生數：**大學部7,390人** (男4,812 ; 女3,169)
大學院碩博1,857人 (男1,539 ; 女563)
專攻科、別科63人 (男7 ; 女56)
附屬高中、國中、小學、幼稚園計1,345人
- 職員數：**2,641人** (女1,295) ，不含附屬。
職員數裡，專任教師為**781人**。

熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針

- 2013年，熊本大學校長宣示學校與地方合作的的基本方針包括：
 - － 1 地域社会との組織的な連携の強化
 - － 2 地域社会の課題解決への貢献
 - － 3 大学の生涯学習機能の強化
 - － 4 産学連携・産業振興への貢献



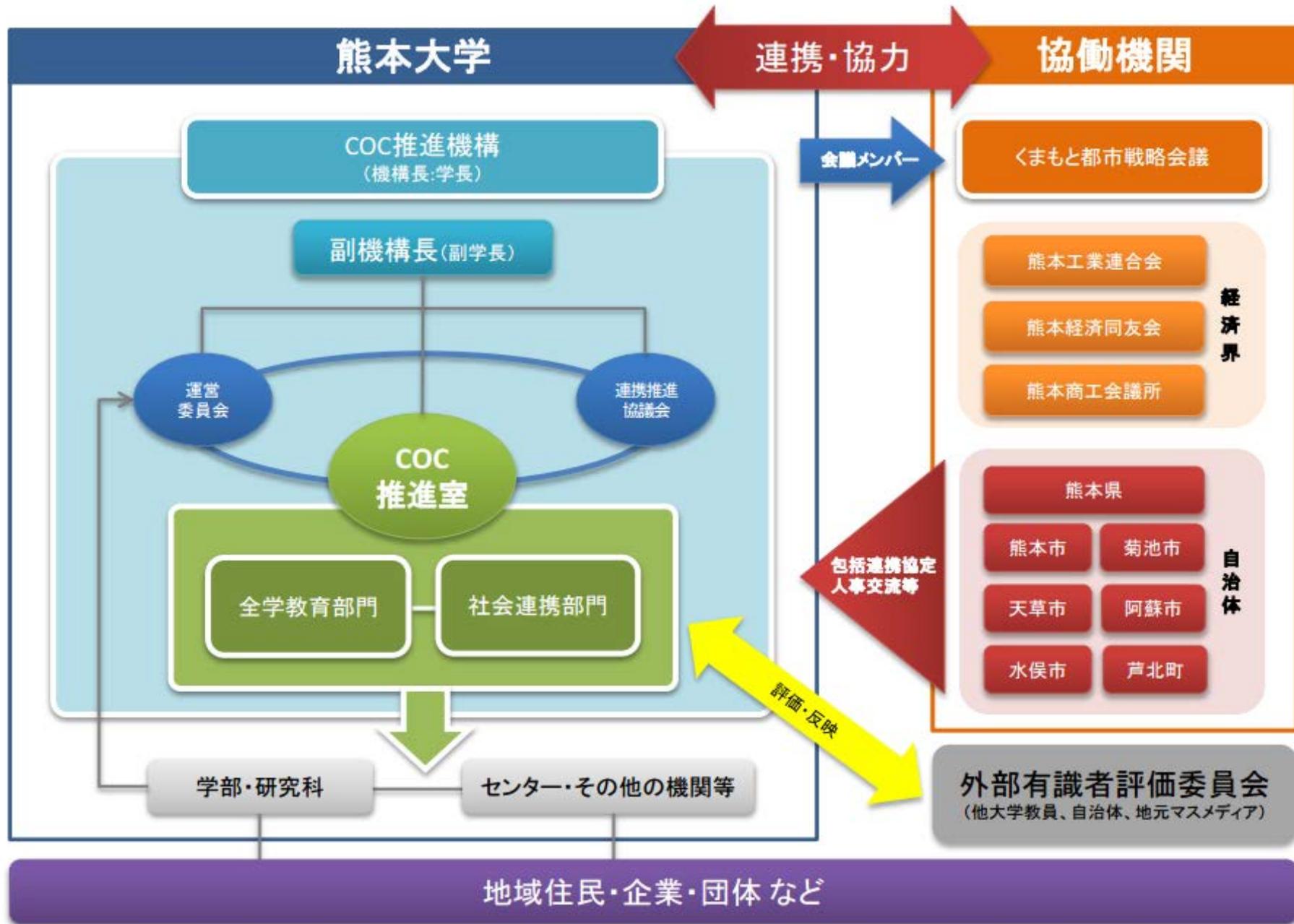
熊本大学
Kumamoto University

学内外のコミュニケーションの活発化を目的としたコミュニケーションマークは、くまもとの「く」を象っていると同時に、Kumamotoの「K」を変化させ、さらに前進していく矢印をイメージし、校旗を彩る紫紺とうこんで彩色したデザインです。伝統を尊重しながら、躍進を続ける熊本大学を象徴しています。



熊本大学の校章は、熊本市の市木でもあり、キャンパス内にも多く植えられている「銀杏」がモチーフとなっています。

実施体制の強化



地域の課題と教育、研究、社会貢献



地域	地域の課題	取り組むテーマ・教育	研究 / 社会貢献
熊本都市圏 (熊本県、熊本市)	地下水保全、学生、高等教育を生かしたまち・ひとづくり、中心市街地活性化	地下水保全と学モン都市づくり	地下水保全、中心市街地活性化に関する研究、およびその成果をまちづくりに携わる人材へ伝授。不登校児童・生徒をサポートする学生によるユアフレンド事業等の実施。
県南地域 (水俣市、芦北町)	公害からの環境再生と地域づくり、農業・林業の6次産業化、過疎への対応	水俣環境再生と農業6次産業化のまちづくり	水俣を中心とする公害からの環境再生と地域づくり、6次産業化に関する研究。環境都市づくり、環境・エネルギー分野に関する教育を行う「みなまた環境塾」の運営、および廃校を活用した地域ラボ(芦北町)を拠点とした地域課題の解決。
県北地域 (菊池市、阿蘇市)	自然災害の多発、阿蘇・菊池の農業(有機)と自然を生かした観光産業、過疎への対応	減災とグリーンツーリズムまちづくり	減災型社会システム実践研究教育センターを中心に、減災に関する研究および社会技術実装に資する人材の育成。菊池市では域学連携として学生・教員が、地域住民とともに地域づくりに取り組む。
天草地域 (天草市)	有明海的环境保全、遠隔地の地域医療、人口激減による地域コミュニティの衰退	有明海環境保全と地域医療のまちづくり	有明海・八代海的环境保全に関する研究、および住民、NPOと協働で海域環境保全に取り組む。医療過疎地域における医療支援法に関する研究、および高次医療サービスの提供や医療人材の育成・派遣。

教育改革 - 教養教育と教育プログラムの改革 -

教育カリキュラムのイメージ

STEP3 :
課題解決型学習 (PBL)

地域に入って課題の解決に取り組む
(インターンシップ + eラーニング)

選択
1科目2単位以上

STEP2 :
地域志向科目群

社会人講師と本学教員から
地域の具体的な課題を学ぶ (対面授業)

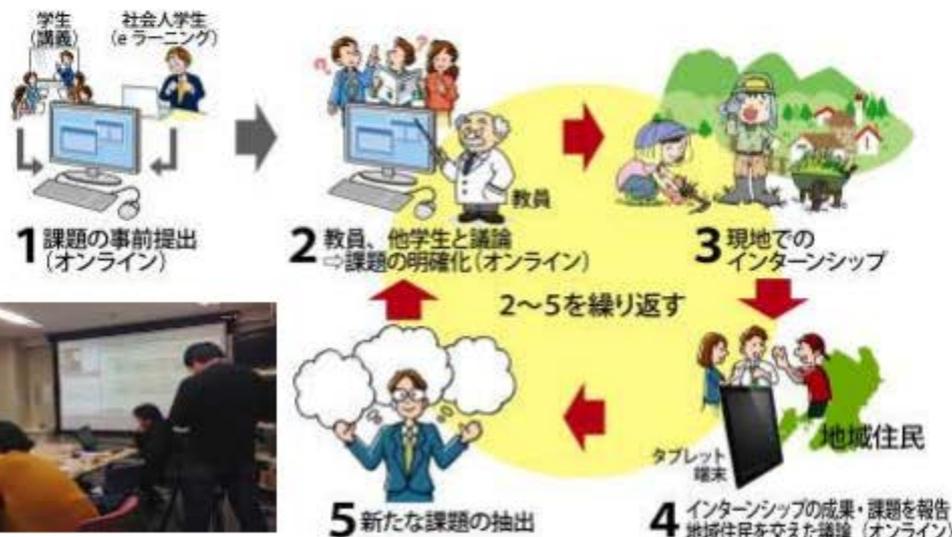
選択
2科目4単位以上

STEP1 :
熊本学(仮)

地域の歴史・文化、現在の状況を理解する
学びの動機づけ科目 (対面授業 + eラーニング)

全新入生必修
1単位

インストラクショナルデザインを活かした eラーニングによる教育 (STEP3)



社会貢献する熊大スピリット

創造する森 挑戦する炎

小国町住民と地域医療を守るワークショップ



天草ラボで
廃校を活用した
地域づくり



高校生の「性」を
考えるラジオドラマ
脚本作成



学生、若手公務員による
政策コンペ



学生から知事、市長、経済界、
学長への政策提言



防災ボランティア



上海交通大学の学生と
公共政策の議論

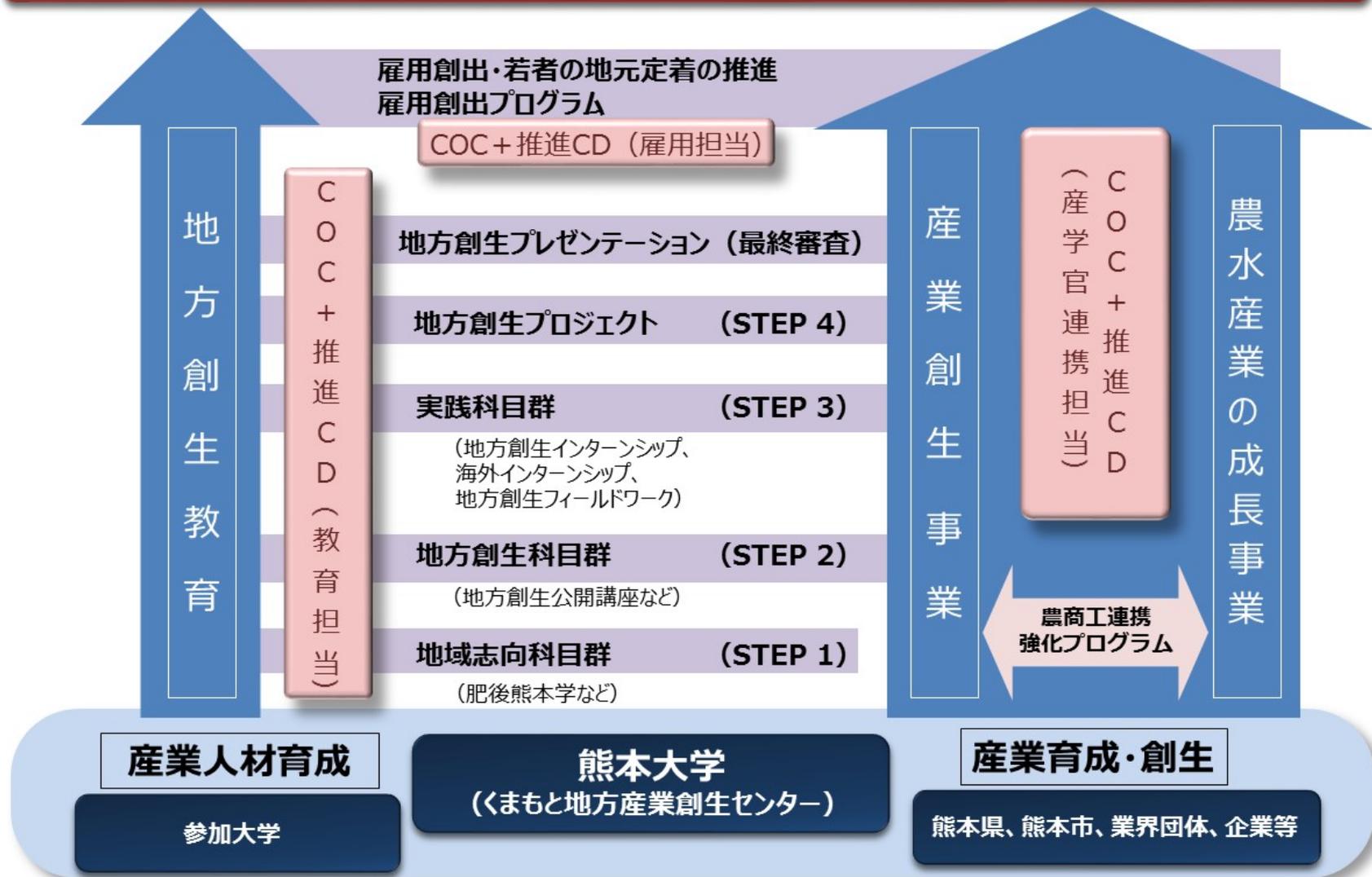


2014→ 2015

- 做法 1：微調原COC計畫，成為COC+。
- 做法 2：整合校內機構的力量。
- 做法 3：強調校際間與地方的合作。
- 做法 4：促成產官學合作，提升在地就業。

熊本版COC+事業の概要

熊本県内の産業振興、雇用拡大、学卒者の地元定着率増 (46.5% ⇒ 56.5%)



政創研は、 大学と地域をつなぎます。

平成19年4月、熊本大学は、大学と地域社会をつなぐ「政策創造研究センター」と「生涯学習教育研究センター」の機能をより強化するため、新たに「政策創造研究教育センター」（政策創造研究部門／生涯学習教育部門）として統合しました。センターでは、熊本大学の研究や教育の成果を活用して、地域のさまざまな課題を解決するための研究や技術開発を行い、提案、実施しています。例えば、自治体経営や地域政策の検討、地域の活性化、防災、都市計画、公共交通、健康福祉対策、環境保全、産業振興など多岐にわたります。

政創研の取り組み

- 地域社会の課題を解決するために調査・研究を行い、研究成果に基づいた方針・手段を提言します。
- 地域社会の課題を解決するためにプロジェクトをつくり、実施します。
- 生涯学習に関する研究を行い、その成果を活かし公開講座などを企画し、実施しています。
- 熊本大学がもつ、高度で専門的な教育研究成果を地域社会へ還元します。
- 地域の教育関係団体や関係機関と連携した教育を行っています。
- 地域政策の担い手となる人材を育成します。
- 行政機関、および地域との連携を計画・実行中の企業や団体からの委託を受け、調査研究を行っています。
- センターの活動に関する報告や広報活動を行っています。
- 自治体から政策研究員を受け入れています。



政策創造 研究部門

地域の課題解決のための
政策研究を推進しています!

地域の課題を解決するための技術開発・提供

熊本大学の豊富な知的・人的・物的資源やその成果を活用して、行政、企業、団体、市民との連携をとりながら、地域が抱えるさまざまな課題を解決するための研究や社会技術の開発を行っています。

その取り組みは、自治体経営や地域政策の検討、地域の活性化、防災、都市計画、公共交通、健康福祉対策、環境保全、産業振興など、多岐にわたります。



例えば、平成26年度からは、激動する社会における「R・デザイン」をテーマに3つの切り口で研究をすすめます。それぞれの今年度の活動は以下のとおりです。

人口減少社会における 自治制度のR・デザイン研究

人口数や人口構成、産業構造の変化、集落の存続、土地利用や国土保全、地方税や地方交付税、義務的経費の変化、社会インフラの更新など、主たる社会経済指標の変化予測します。



地域文化を基盤とした イノベーションのR・デザイン研究

文化的景観保全の研究アプローチ「地域コミュニティとともに、発見する・共有する・創造する」を振り返り、地域コミュニティそれぞれの社会システムの基礎事項まとめるとともに、新規対象地域を検討します。

PD(積極的選抜)とコミュニケーションを 活かしたR・デザイン研究

社会システムにおける「コミュニケーション」の定義と役割を再確認し、特に地域コミュニティというコンテキストの保健分野に焦点を当て、向社会的な協働を創出するためのコミュニケーションの要素を抽出します。

生涯学習 教育部門

大学と地域社会を結び、「知」を循環させる
生涯学習を推進しています!

地域社会に対する生涯学習の多様な機会の提供

高等教育機関としての生涯学習のあり方や新しい技術等を活用した生涯学習について研究。市民の生き甲斐や自己実現のための知識・技術の習得や知的好奇心を満たす学習、さらにはスキルアップやキャリアアップのニーズにも対応する様々な学習の機会を提供します。また、自治体等の生涯学習機関と連携し、地域の生涯学習の推進を支援します。



公開講座

大学らしく、また幅広い年代の方々に楽しみながらご利用いただける講座や、スキルアップ、キャリアアップに役立つ講座を多数開講します。

授業開放

市民が大学の授業を学生とともに受講する講座です。各学部、大学院および教養教育実施機構が開講している正規の授業を受講することができます。

放送公開講座

誰もが気軽に熊本大学の授業を体験できるのがテレビ放送公開講座および、ラジオ公開授業です。バラエティー豊かな研究の最前線を分かりやすく解説します。



詳細ホームページQR→

知のフロンティア講座

知的好奇心を満たしたい市民向けの講座です。最先端の研究や社会的ニーズを受けた研究内容を講演会やシンポジウムとして年に2~3回開催します。

しんぶんカフェ

学生向けのNIE(教育に新聞を)として、植地真一郎客員教授(熊日NIE専門委員)が講師を務め、毎週月曜日の朝に新聞カフェを開いています。新聞をテキストに、「社会を見つめる力」「考える力」「表現する(書く・話す)力」を磨きます!



政創研は、
文系・理系の専門分野で、
多くの引き出しを持っています。

 <p>センター長 松本 泰道 Masamoto Yasunichi 熊本大学理事・副学長 工学博士 専門：社会学</p>	 <p>政策創造研究部門教員 人文・社会科学分野 上野 真也 Ueno Shinya 教授 博士(公共政策学) 専門：政治学・比較政治学 自治体健康、ソーシャルキャピタル 社会ネットワーク分析</p>	 <p>政策創造研究部門教員 自然科学分野 田中 尚人 Tanaka Naoto 准教授 博士(工学) 専門：都市地域計画 土木史、景観論</p>	 <p>政策創造研究部門教員 生命科学分野 河村 洋子 Kawamura Yoko 准教授 Ph.D.(Health Ed.&Pro.) 専門：ヘルスコミュニケーション ヘルスプロモーション、健康行動学 社会心理学</p>	 <p>政策創造研究部門教員 安部 美和 Abe Miwa 特任助教 博士(地球環境学) 専門：環境学、災害復興、防災、地域社会</p>
 <p>生涯学習教育部門教員 都竹 茂樹 Tsuzuku Shigeki 教授 医学博士 専門：ヘルスプロモーション トレーニング科学 教育工学</p>	 <p>生涯学習教育部門教員 円山 琢也 Maruyama Takuya 准教授 博士(環境学) 専門：交通政策分析 交通計画、土木計画学</p>	 <p>大学院先導機構 修士課程教育リーディングプログラムMHD 石田 聖 Ishida Satoshi 特任助教 博士(公共政策学) 専門：政治学、公共政策学(おもに 合意形成、紛争解決、参加型意思決定 支援手法)</p>	 <p>政策研究員 熊本市より派遣 渡辺 孝太郎 Watanabe Kohtarō 研究テーマ：科学技術社会論</p>	 <p>政策研究員 熊本市より派遣 園田 賢太郎 Sonoda Kentarō 研究テーマ：少子化について</p>
<p>客員政策研究員 熊本市職員 吉住 修 Yoshizumi Osamu 博士(公共政策学) 専門：比較政治・行政、地域政策・研究 (日欧、日韓)</p>	<p>客員教授 姜 尚中 Kang Sang-jung 東京大学名誉教授 博士(政治学)</p>	<p>客員教授 潮谷 義子 Shiotani Yoshiko 日本社会政策大学院理事 (熊本市長知事)</p>	<p>客員教授 アーヴィンド・シンハル Arvind Singh テキサス大学エルバソ校コミュニケーション学教授 Ph.D.(Communication Theory and Research)</p>	<p>客員教授 田川 憲生 Tagawa Kensho ホテル日航熊本 代表取締役会長</p>
<p>事務・技術補佐員 佐藤 嘉洋 Sato Yoshinori</p>	<p>客員教授 越地 真一郎 Koeji Shinichiro 株式会社熊本日日新聞社 NE専門委員</p>	<p>客員教授 羽藤 英二 Hato Eiji 東京大学大学院工学系研究科 教授 博士(工学)</p>	<p>客員教授 彭 勃 Peng Bo 上海交通大学 教授</p>	<p>客員准教授 劉 春栄 Liu Chunrong 復旦大学国際経済・公共事務学院 准教授 Ph.D. in Sociology</p>
<p>地域創生推進機構(COC)スタッフ 富吉 満之 特任准教授 Tomiyoshi Mitsuyuki</p>	<p>客員教授 藤江 朋子 Fuji Tomoko</p>	<p>客員教授 山下 美希 Yamashita Miki</p>	<p>客員准教授 天野 慧 特任助教 Amano Kei</p>	<p>客員准教授 本田 早有莉 Honda Sayuri</p>
<p>客員准教授 内山 忠 特任助教 Uchiyama Tadashi</p>	<p>客員准教授 福井 奈美 事務スタッフ Fukui Nami</p>			

地(知)の拠点整備事業
熊本大学「活力ある地域社会を共に創る 火の国人材育成事業」を推進しています！
「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、
全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援することで、課題解決
に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の
機能強化を図ることを目的としています。



Kumamoto University
熊本大学 政策創造研究教育センター

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL.096-342-2044 FAX.096-342-2042

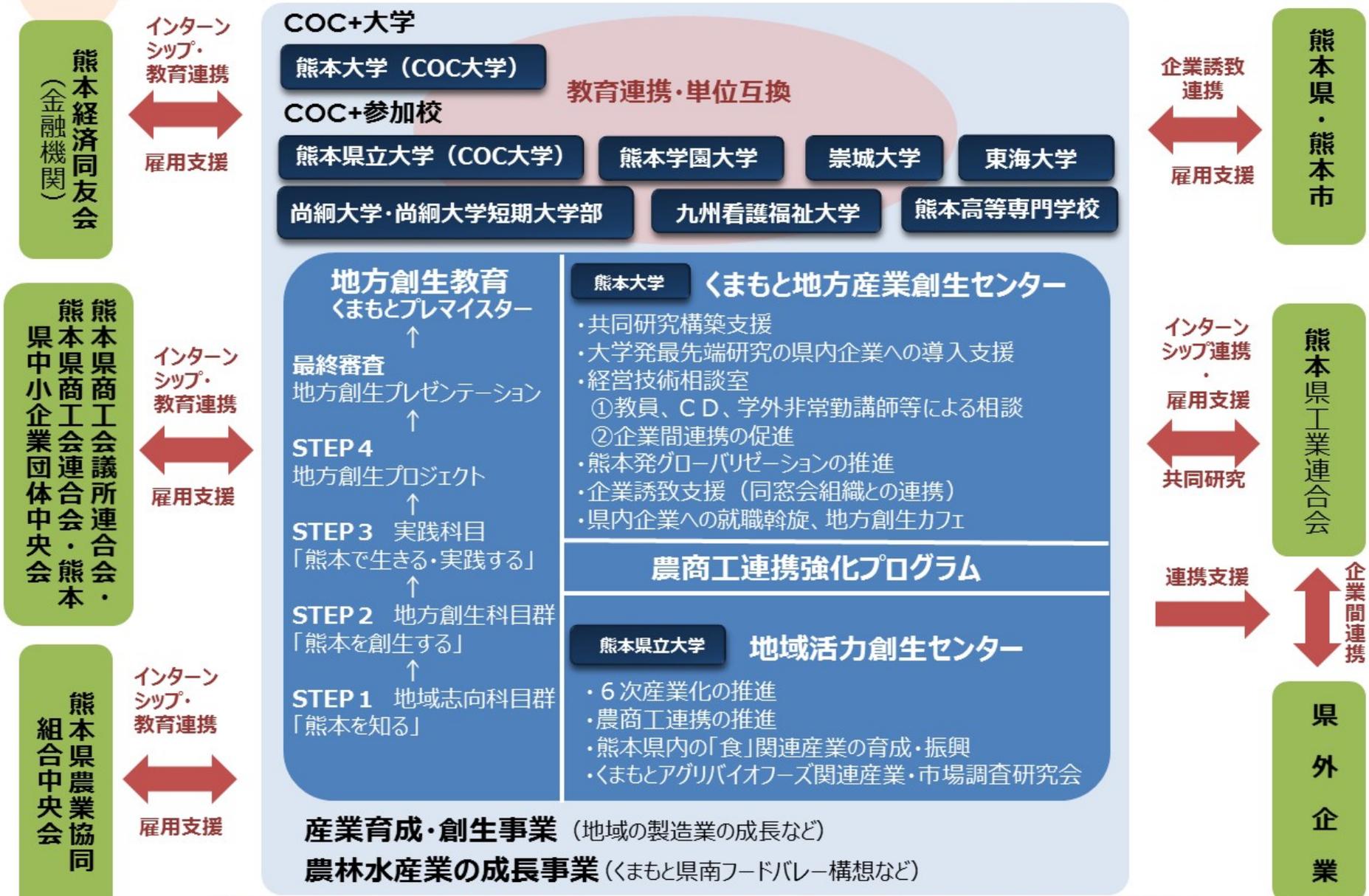
<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>

代表メール seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp



発行：平成27年6月1日

事業協働機関の連携



熊本県内の産業振興、雇用拡大、学卒者の地元定着率増

熊本大学

イノベーション
推進機構

地域創生
推進機構

連携

くまもと地方産業創生センター

(センター長=研究・社会連携担当理事)

外部有識者
評価委員会

くまもと地方産業創生センター
運営委員会

事業等の方針決定

委員長:センター長
委員:副センター長、部局長選出の教員
学外委員:県内自治体、大学及び産業界

くまもと地方産業創生センター
企画委員会

業務の企画立案及び実施

委員長:センター長
委員:副センター長、センター教職員
学外委員:企業等

提案

承認

No	所属	代表職名	代表者氏名	代理出席及び陪席	出席者氏名 *敬称略
1	熊本大学	学長	原田 信志	理事・副学長	松本 泰道
2	熊本大学				
3	熊本県立大学	学長	古賀 実	地域連携・研究推進センター長	松添 直隆
4	熊本県立大学				
5	東海大学	九州キャンパス長	中嶋 卓雄	九州企画調整課長	本間 功一
6	東海大学				
7	熊本学園大学	学長			山内 良一
8	熊本学園大学				
9	熊本学園大学				越地 真一郎
10	熊本学園大学				東 勇一
11	熊本学園大学				清田 俊秀
12	崇城大学	学長			吉永 貞弘
13	崇城大学				
14	尚綱大学・尚綱大学短期大学部	学長			岡原 安利
15	尚綱大学・尚綱大学短期大学部			大学事務局長	
16	尚綱大学・尚綱大学短期大学部			楡木キャンパス教務課長	今村 貢
17	九州看護福祉大学	学長	志賀 潔	総務課長	山崎 貴士
18	九州看護福祉大学				
19	熊本高等専門学校	校長	長谷川 勉	事務部長	愛場 優治
20	熊本高等専門学校				
21	熊本高等専門学校				内山 慎一
22	熊本県	知事			島崎 征夫
23	熊本県				坂本 弘道
24	熊本県				安倍 千佳子
25	熊本県				濱洲 大輔
26	熊本市	市長			井上 隆
27	熊本県工業連合会	会長	足立 國功	(代理)熊本県工業連合会会長	
28	熊本経済同友会	代表幹事	甲斐 隆博		
29	熊本経済同友会	//			
30	熊本県商工会議所連合会	会長			区域産業連合会、工商總會會長
31	熊本県商工会連合会	会長			
32	熊本県中小企業団体中央会	会長			総務部次長
33	熊本県中小企業団体中央会			(代理)営農生活センター所長	
34	熊本県農業協同組合中央会	会長	梅田 穰		

跨校 (國立、縣立、私立、短大、
專科、高中職) 的校長、副校長

縣市政府的一級單位首長

區域產業連合會、工商總會會長

平成27年10月29日、平成27年度第1回熊本地方COC+推進協議会を開催し、規則の整備、事業計画の実施・運用スケジュール等について審議が行われました。

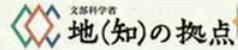


:COC+参加校
:COC+事業協働機関

:出席委員

地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業 (COC+)

平成27年度大学教育再生戦略推進費



“オール熊本” *Center of Community* で取り組む

熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム



熊本をもっと
知ることから
始めないと！

できれば
熊本で
就職したい

熊本の魅力を
活かした
新しいビジネスに
挑戦したいな！

COC+とは

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は、文部科学省が実施する事業です。大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取り組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。この度、この事業に「“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム」が採択されました。

プログラム参加機関

熊本大学、熊本県立大学、九州看護福祉大学、熊本学園大学、尚綱大学・尚綱大学短期大学部、崇城大学、東海大学、熊本高等専門学校、熊本県、熊本市、熊本県工業連合会、熊本経済同友会、熊本県商工会議所連合会、熊本県商工会連合会、熊本県中小企業団体中央会、熊本県農業協同組合中央会

地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)

プログラムのポイント

熊本県の若者の人口流出を抑制し増加させるためには、雇用の受け皿としての産業振興と地元志向を促す教育が必須です。このプログラムでは、県を代表する産業である製造業と農林水産業の振興、並びにその施策に絡めた人材育成教育を行い、雇用創出することを目的としています。

主に県中央と県北地域の製造業を中心とした産業創生事業に関しては熊本大学がリードし、主に県南に位置する農林水産業成長事業に関しては、熊本県立大学がリード

します。これらは、互いに強く連携し、さらに参加校、県、市、企業、関係団体等が協働する“オール熊本”の組織により、一致団結しながら人材育成を行います。

教育プログラムは、熊本を知るための地域志向科目、熊本を創生する地方創生科目、インターンシップなどの実践科目からなり、必要単位数の取得に加え熊本創生企画を発表する地方創生プレゼンテーションの審査に合格すれば、くまもとプレマイスターの称号を授与します。

プログラム参加機関の連携



熊本県内の産業振興、雇用拡大、学卒者の地元定着率増

【問合せ先】 熊本大学くまもと地方産業創生センター COC+ 推進室 Tel: 096-342-3288 (内線 101)
〒860-8555 熊本県中央区黒髪 2-39-1 E-mail: kridc@jimu.kumamoto-u.ac.jp

順道問的問題

- 少子化的招生問題？
- 有沒有限期升等？
- 學生就業的情況？在鄉鎮工作的狀況多嗎？

心得小結

- 不倚靠教育部或科技部的計畫經費，回到學校體制的正常運作才是正途。熊本大學在財務自主的情況下，做了很多體制上的改革和努力。
- 與在地合作，在熊本大學已經被認為是理所當然的事，不光是口號、想像。
- 大學的視野朝向地方，會讓自己變得不一樣。

北九州市立大学



地域貢献に関するお知らせ

「第2回北九州学生プレゼン大会」で、地域共生教育センター-学生運営スタッフチームが最高賞である「会頭賞」を受賞しました。

第2回北九州学生プレゼン大会で「会頭賞」を受賞

11月27日(土)、毎日西部会館で行われた北九州商工会議所主催の「第2回北九州学生プレゼン大会」にて、地域共生教育センター(通称:421Lab.)の学生運営スタッフチームが当大会の最高賞である「会頭賞」を受賞しました。

この北九州学生プレゼン大会は、北九州をより魅力的なまちにするための提案を行うもので、21チームが大会にエントリーし審査の結果、チームが最優秀賞に輝きプレゼンテーションを行いました。

学生運営スタッフチームは「『エコビング』積極的な北九州市民と『エコプラン』づくりの企業コンセプトとした「エコビング」を提案し、エコビングは楽しみながら社会へ配慮した行動や学びの要素が含まれるミッションを通して、自然とエコライフをおくる市民が増えることを目指した企画です。

プレゼン後、企画に賛同していただいた審査員を含む、会場の方々に激励のお言葉やアドバイスを頂きました。



421Lab

地域貢献に関するお知らせ

平成27年12月7日「大学の地域貢献度ランキング」調査で、全国8位を獲得しました。

「大学の地域貢献度ランキング」で本学が全国第8位を獲得！

日本経済新聞社が実施した「大学の地域貢献度ランキング」調査において、本学が総合ランキングで全国第7位となりました。(本学は、本調査10回中9回が10位以内、うち5回は3位以内にランキングされています。)

この調査は、2014年度の地域貢献活動について全国の国公立大学751校を対象に行われ、有効回答のあった523校についてランキングを行ったものです。

地域貢献度総合ランキング(日本経済新聞社2015年12月7日)

順位	大学名
第1位	信州大学
第2位	宇都宮大学
第3位	兵庫県立大学
第4位	群馬大学
第5位	長崎大学
第6位	徳島大学
第7位	岩手大学
第8位	<u>北九州市立大学</u>
第9位	大阪市立大学
第10位	長野大学

2016年大学地方貢献度
度排名全国第八

※詳細は『日経グローバルNo.281』でご覧いただけます。

昨年秋に福岡県文化賞を受賞された堀切辰一氏主宰の庶民時代製研究会会員による出品を本学比較文化学科八百ゼミの学生7名の企画により「襦袢(らんる)が伝える暮らし」「染織は語る」「現代に生きる染織ファッション」の3つのコーナーに分けて展示しました。

今年5月に日本初の「世界記憶遺産」に登録された山本作兵衛の作品も炭鉦の暮らしの説明で展示しています。

是非ご来場ください。

1. 会期:平成23年9月10日(土)~12月5日(日)
2. 会場:いのちのたび博物館 ほけっとミュージアムNo.9,10,11
(北九州市八幡東区東田2-4-1 JRスペースワールド駅前)
3. 観覧料:常設展入場料(一般:500円/高・大学生:300円/小・中学生:200円)に含まれます

※本展示は平成23年度特別研究推進費によるものです

【問い合わせ先】北九州市立自然史・歴史博物館(093-681-1011)



做法

- 於校內成立學生自主運作學習空間 - *421Lab*。
- 跟地方單位大量合作，設置地方上的學習據點。
- 每個據點都有自主營運的能力。
- 學生和地方人士共同參與據點所辦理的學習活動。

過旦市場裡的大學堂



毎月一次的市場達人講座（收費式）

市場の達人講座

達人が伝える
とつておきの味の秘訣

4月19日(火)「魚をあろす」 瀬王水産
5月17日(火)「究極のだし」 亀甲屋
6月21日(火)「干物とジダ煮」 やまいち
7月19日(火)「真夏のハリハリ鍋」 <じ5の岡崎

【2016年度◎上半期講座◎開講】
<日時> 毎月第3火曜日 午後3時から4時まで
<場所> 且通市場・大學堂
<参加費> 各回1000円
参加費には食材・試食・お持ち帰り品含まれます
<申し込み> 申込み 080 (6458) 1184
e-mail daigakudo.net@gmail.com
先着順にて申し込み締め切ります

大學堂

市場の達人講座

達人が伝える
とつておきの味の秘訣

【2016年度◎上半期講座◎開講】
4月19日(火)「魚をあろす」 瀬王水産
5月17日(火)「究極のだし」 亀甲屋
6月21日(火)「干物とジダ煮」 やまいち
7月19日(火)「真夏のハリハリ鍋」 <じ5の岡崎

【2016年度◎上半期講座◎開講】
<日時> 毎月第3火曜日 午後3時から4時まで
<場所> 且通市場・大學堂
<参加費> 各回1000円
参加費には食材・試食・お持ち帰り品含まれます
<申し込み> 申込み 080 (6458) 1184
e-mail daigakudo.net@gmail.com
先着順にて申し込み締め切ります

大學堂

容易忽略，仔細凝視，卻讓人眼睛為之一亮



心得小結

- 一瞬間，我好像在日本看到水沙連行動辦公室跟大學堂的影像重疊了。
- 社區裡的學習據點真的很重要，自由和自主的學習更重要。
- 地方的達人和大學的結合，會激起五光十色的煙花。